

緑園地区

緑園キズーナ（災害時要援護者支援推進）委員会

## 要援護者をひとりも取り残さない

### 災害時の支え合い、「キズーナ」の取組



写真は安否確認訓練の様子

自然災害が多発する昨今、いざ災害が発生した時に備え、自力で避難することが困難な住民（要援護者）をどのように支えていくのかが、多くの地域で課題となっています。

緑園連合自治会では、2012年5月に災害時要援護者支援推進委員会（緑園キズーナ）を設立し、3年間の期限として、要援護者支援事業を構築することを決定しました。視点は災害が起きたときに、支援を必要としている人たちを確実に支援する体制づくりです。設立当時緑園キズーナ委員会委員長として全体の指揮をとり、連合としての取組が終了した後も、引き続きキズーナの活動を続けている緑園五丁目自治会の田村守雄会長にお話を伺いました。

※キズーナの名前の由来

名前のおり、「絆」の意味も込め、また地域のみなさんが覚えやすい名前にとということで、あえてカタカナで命名



緑園五丁目自治会の田村守雄会長

■災害弱者を地域内で支え合いたい

災害が発生したら、自分たちの身は、自分たちで守らなければなりません。災害が発生した時のことなど、普段の生活からは想像しにくいですね。

災害時こそ、住民同士が支え合うことが大切なのですが、地域内で近所付き合いが少なく、高齢化が進んでいる地域では、身近に支援を必要とする人がいても、災害時に対処することができないおそれがあります。

そういった「要援護者」（支援を必要とする人）と「支援者」をつなぎ、支え合いの仕組みをつくることを目的に「緑園キズーナ」を発足しました。

【緑園キズーナが目指す達成目標】

- ① 要援護者がリストアップされており、緊急時にどんな支援が必要か、連絡先を含め自治会として把握している。
- ② 一人の要援護者に複数の地域支援者が特定されていて、安否の確認・避難支援を円滑に進められるよう、必要なコミュニケーションが取られている。
- ③ 民生委員・児童委員の見守りと連携し、自治会として組織的・継続的に支えることができている。

## ■情報を把握する必要性と課題

キズーナは、先行して取組を進めている緑園六丁目をモデルとして、連合自治会で推進組織※を立ち上げました。実施主体は単位自治会とし、推進組織としては考え方や仕組みの共有、情報交換、取り組みのPRを行いました。

※緑園の単位8自治会の会長、福利厚生、防災、民生委員・児童委員他関係者全30名強のメンバーで、2012年連合自治会内に「緑園キズーナ委員会」を設置し、年6回の委員会を3か年で全18回実施。また3年後のフォローアップを目的として、2016～2017の両年、連合自治会防犯防災部主催でキズーナ推進情報交換会を全4回実施しました。



写真：キズーナ PR 活動の一環として、ふれあい祭りに出店①



写真：キズーナ PR 活動の一環として、ふれあい祭りに出店②

また自治会ごとに要援護者（災害時に自力で避難できない申し出があった方）をリストアップし、個別に支援カードを作成しました。

（支援を必要とする住民がどんな状態で、どこに居住し、どんな支援が必要か、および緊急の連絡先等）

◆要援護者登録カード（緑園 5 丁目より提供）

緑園5丁目 キズーナ【要援護者登録カード】			
緑園5丁目自治会長 様			
私は 緑園5丁目地域支え合い事業の趣旨に賛同し、下記の個人情報等について、名簿等への記載や、自治会長、民生委員・児童委員が必要に応じて、災害時に活用することを世帯を代表して承諾します。			
平成 年 月 日		(開票者署名欄) 世帯代表者氏名 印	
世帯代表者氏名	住所		
自宅電話番号:045-	緊急連絡先(携帯等):		
◎災害時に援護が必要なご家族			
氏名	生年月日、性別	援助してほしい理由に○を付けてください。	
( 年 月 日生) 男・女		1. 高齢者 2. 一人暮らし 3. 寝たきり 4. 歩行困難	
氏名		5. 障がいがある 6. その他( )	
( 年 月 日生) 男・女		1. 高齢者 2. 一人暮らし 3. 寝たきり 4. 歩行困難	
		5. 障がいがある 6. その他( )	
◎災害時親族・親戚や地域の支援者の連絡先			
親族	氏名	性別	住所
親戚	電話番号:	緊急連絡先(携帯等):	
関係	氏名	性別	住所
	電話番号:	緊急連絡先(携帯等):	
日頃、支援をお願いしている方	氏名	性別	住所
	電話番号:	緊急連絡先(携帯等):	
	氏名	性別	住所
	電話番号:	緊急連絡先(携帯等):	

※《災害時地域支え合い「要援護者登録カード」》の趣旨

災害発生時に、要援護者の安否確認、情報伝達、救出援護、避難誘導などが、近隣の助け合いのもとに円滑に進められるように、あらかじめ該当世帯を把握するためのものです。

- ・世帯代表者氏名、住所と緊急連絡先
- ・災害時に援護が必要なご家族（援助してほしい理由にチェック）
  - 1) 高齢者
  - 2) 一人暮らし
  - 3) 寝たきり
  - 4) 歩行困難
  - 5) 障がいがある
  - 6) その他
- ・災害時親族・親戚や地域の支援者の連絡先（緊急連絡先も含める）

◆地域支援者登録カード（緑園5丁目より提供）

緑園5丁目 キズーナ【地域支援者登録カード】		
緑園5丁目自治会長 様		
私は、緑園5丁目地域支え合い事業の趣旨に賛同し、下記の個人情報等について、名簿等への掲載や自治会長及び民生委員児童委員が必要に応じて、災害時に活用することを世帯(団体)を代表して承諾します。		
平成 年 月 日	【同意署名欄】 世帯(団体)代表者氏:	
◎ 災害発生時にご近所の要援護者の支援をしていただける方は、次の欄に記入してください。		
氏名	男・女	住所 泉区緑園5丁目
( 歳 )	電話番号:	緊急連絡先(携帯等):
氏名	男・女	住所 泉区緑園5丁目
( 歳 )	電話番号:	緊急連絡先(携帯等):
氏名	男・女	住所 泉区緑園5丁目
( 歳 )	電話番号:	緊急連絡先(携帯等):
◎ 災害発生時に資格・技術を生かしてご協力いただける方や資材が提供できる方は次の欄に記入してください。		
氏名	男・女	資格・資材・技術等 泉区緑園5丁目
( 歳 )	電話番号:	緊急連絡先(携帯等):
氏名	男・女	資格・資材・技術等 泉区緑園5丁目
( 歳 )	電話番号:	緊急連絡先(携帯等):
氏名	男・女	資格・資材・技術等 泉区緑園5丁目
( 歳 )	電話番号:	緊急連絡先(携帯等):

※《災害時地域支え合い「地域支援者登録カード」》の趣旨

地域支援者には、要援護者への日ごろの声かけや、いざという時の安否確認、避難の手助けをお願いするものですが、あくまで一般市民としてできる範囲での支援を行うものであり、責任を伴うものではありません。緑園5丁目にも、自分や家族だけでは災害時に避難が困難な方々がいまいます。災害時に要援護者の支援に役立つ様々な資格、技能や経験（手話、通訳、介護福祉など）や資機材のご提供について登録していただき、いざという時に活用したいと考えています。

- ・災害発生時にご近所の要援護者の支援をしていただける方は、氏名・住所・連絡先を記入
- ・災害発生時に資格・技術を活かしてご協力いただける方や資材が提供できる方はチェック印を入れる（氏名、住所、連絡先、資格・資材・技術等）

支援者が要援護者の家に状況を見に行き、安否を確認して避難所へ誘導します。

その際、要援護者の方が無事であることを示す目印が「黄色いタスキ」です。

（要援護者が門扉など自宅の外から見える場所に掲示）

## ■キズーナ推進の成果と課題

緑園地区の8自治会のうち、7自治会がキズーナ事業運営に踏み出すことができました。自治会ごとにそれぞれ知恵を絞り、特徴のある推進活動を展開し、「情報共有方式」については、緑園地区の推進体制の枠内で、既に2自治会で導入しています。



安否確認訓練の際に使用する腕章

また災害時に支え合うことの必要性を、自治会内で再確認することができたことは大きな成果です。

今後の課題は大きく分けて3つあります。

- (1) 個人情報の管理義務についての負担は避けられず、意向確認の実務などが発生するため、自治会の組織的な理解・同意が不可欠
- (2) 作業内容と手順が、通常の自治会業務としては複雑で面倒な感が否めず、担当者の交代時等、業務引き継ぎを円滑に行うために特段の留意が必要
- (3) 役員の任期が短い自治会では、特に継続面での難度が高い

キズーナを継続して運営していくためには、自治会としての組織的・継続的な支えが必須。

支援者の中には現役で働いている人も多いことから、この取組の必要性が徐々に地域へ広がっていることを実感しています。まだキズーナのことをよく知らない人たちや、活動に参加することができるはずの潜在層の人たちに対しても、災害時は、近隣住民同士の支え合いが何よりも必要不可欠であることをしっかりと伝えていく必要があります。

災害時は、近隣住民同士の支え合いが何よりも必要不可欠であることを。



左から松山部長、田村会長

泉区事例集 2018  
連長インタビュー



□緑園連合自治会 なりたとしひと 成田 俊人 会長

取材：キズーナ

緑園地区は、高層マンションと戸建住宅が混在するまちです。

会長になって初めて自治会活動の全体を把握しましたが、ここ緑園地区では、駅前より開発されたマンション群、戸建て住宅などのいわゆる新興住宅地の地域特性があり、古くからの人間関係が構築されていることも少ないため、地域活動を含めた自治会・町内会の運営にあたっては、他の地区とは異なる事情があります。

どのような活動であっても、それぞれのまちに合った体制づくりが大切だと思います。緑園地区の場合は、長期間にわたって自治会・町内会活動に携わってくださる方が少ないのが現状です。また一生懸命活動しておられた方が退かされると活動が衰退するおそれもあるため、自治会・町内会の業務を引き継ぐ、次の担い手となる方が活動しやすいように、自治会町内会の事業や業務をマニュアル化するなどの工夫をしています。時代や地域性に合わせて地域活動の運営を見直し、改善していく工夫も、長期にわたり継続したまちづくりを可能にする大事なポイントになるのではないのでしょうか。

この事例集に掲載されている「キズーナ」の活動もこうした地域の事情を踏まえて、それぞれの自治会で工夫をしながら取り組んできた地域支援活動の一つであると思います。